６月の農作業管理

柑橘

指導販売課

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

作業１　黒点病防除の徹底で正果率を上げよう！！

時期	病害虫	防除薬剤
上旬	１回目**黒点病**	ジマンダイセン水和剤　400 倍～600 倍 **※中晩柑は 600 倍で使用**
	ミカンサビダニ	コテツフロアブル　4,000 倍
	展着剤	アビオンＥ　1,000 倍
	緑化促進	尿　　素　500 倍
	光合成促進	リンクエース　2,000 倍
下旬	２回目**黒点病**	エムダイファー　600 倍
	ミカンハダニ	アタックオイル　極早生・早生　400 倍 極早生・早生以外 150 倍
	カイガラムシ類	モベントフロアブル　2,000 倍
	カイガラムシ類幼虫	又は　アプロードフロアブル　1,000 倍

●黒点病は６月上旬から、降雨により感染します。
●1 回目の防除は「5 月下旬から6月5日」までに必ず実施しましょう。
●黒点病に感染しやすい極早生・早生は、ジマンダイセン水和剤４００倍で防除しましょう。
（※中晩柑は 600 倍で使用のこと）
●黒点病の防除は降雨量２００mmまでに再散布を徹底しましょう。
●枯れ枝は黒点病の感染源になるので切除し、園外に持出し処分しましょう。
●尿素、リンクエースの葉面散布で樹勢維持・緑化促進を図りましょう。

作業２　摘果作業軽減

摘果剤（ターム水溶剤）を活用して枝別、内部全摘果で労力軽減を。

一次生理落果最盛期　満開１０～２０日後（５月下旬～６月上旬）

ターム水溶剤　　１,０００倍
アタックオイル　　２００倍　又は
機械油乳剤　　４００倍

※摘果効果を高めるため、散布後２～３日気温が高いと予想される日に散布して下さい。
※二次生理落果時での間引き摘果を行う際の摘果剤（ターム水溶剤）使用は、落果しすぎる事があるため使用する際には、必ず指導員に相談をして下さい。

作業３　夏肥の施用（中生・普通・高糖系・中晩柑）

年間で最も吸収効率が良い時期（６月）の夏肥の施用は、果実肥大の促進、樹勢の維持や収穫後の生理障害（ヤケ果等）の発生防止等に特に有効です。必ず施用しましょう。

作業４　中晩柑の荒摘果

せとみ・デコポンは６月下旬には粗摘果を終わらせて下さい。
宮内伊予柑・ポンカン・は６月下旬から実施して下さい。

●小玉・直花果・すそなり果・内なり果の摘果
●樹勢維持のため、主枝、亜主枝の先端３０センチは全摘果
●太田ポンカンは野球帽の広さに１個になるように摘果
●せとみ・デコポンは葉数１００枚に１果程度に強く摘果

作業５　苗木・幼木園の管理

時期	病害虫	防除薬剤
６月下旬	ハスモンヨトウ アブラムシ	コテツフロアブル　4,000 倍 コルト顆粒水和剤　4,000 倍

●芽かきの実施
●生育促進（葉面散布
　尿素５００倍を５～７日毎
●摘芯（６月上旬～６月中旬）
　春芽を自己摘芯前に新葉６～８枚
　程度で摘芯する
●施肥（６月上旬～６月中旬）
　柑橘配合１号を１本あたり一握り

落葉果樹

	病害虫	防除薬剤	重点管理
キウイフルーツ	軟腐病 （６月上旬梅雨入り前、６月下旬）	アリエッティ水和剤 600 倍 又は フロンサイドＳＣ 2,000 倍	・摘果 奇形果や側果を除去し１㎡当たり 20～30 残る程度とする ・夏肥(６月上旬) 柑橘有機配合１号 ４袋/10a 当
	カメムシ キイロマイコガ	アディオン乳剤　2,000 倍	
西条柿（上下旬）	炭疽病 うどんこ病 落葉病	ストロビードライフロアブル 3,000 倍	・夏肥(６月下旬) 柑橘有機配合１号 ２袋/10a 当
	カキノヘタムシガ チャノキイロアザミウマ	パダン SG 水溶剤　1,500 倍	
桃	シンクイムシ	ロディー乳剤　1,000 倍	・袋掛けの実施

野菜

	病害虫	使用薬剤	使用倍率	収穫前日数	総使用回数
キュウリ	炭疽病 うどんこ病 べと病	ダコニール 1000	1,000 倍	前日	12 回
	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000 倍	前日	３回
ナス	チャノホコリダニ	コテツフロアブル	2,000 倍	前日	４回
	ﾐﾅﾐｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	ダントツ水溶剤	4,000 倍	前日	３回
トマト	疫　病	リドミルゴールドＭＺ	1,000 倍	前日	２回
	コナジラミ アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000 倍	前日	３回

水稲

品種	病害虫	箱処理剤
ヒノヒカリ	紋枯病、いもち病、コブノメイガ、ウンカ類等	稲大将箱粒剤
	紋枯病、コブノメイガ、ウンカ類等	スクラム箱粒剤
	いもち病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ等	フルスロットル箱粒剤

●中干　　コシヒカリは田植え後、40 日前後で中干を行う
目標茎数の８割（２０本程度）になったら中干

◎営農相談フリーダイヤル　　０１２０－０８２７２２